

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）  
「HIV 検査体制の改善と効果的な受検勧奨のための研究」  
HIV 検査体制の改善に向けた戦略研究（今村顕史） 報告書

## 診療所におけるゲイ・バイセクシャル男性向け HIV・STI 検査機会の提供

|        |        |                       |
|--------|--------|-----------------------|
| ◎研究協力者 | 川畑 拓也  | (地方独立行政法人大阪健康安全基盤研究所) |
| 研究協力者  | 阪野 文哉  | (地方独立行政法人大阪健康安全基盤研究所) |
| 研究協力者  | 浜 みなみ  | (地方独立行政法人大阪健康安全基盤研究所) |
| 研究協力者  | 青木 理恵子 | (特定非営利活動法人 CHARM)     |
| 研究協力者  | 朝来 駿一  | (ふれんどリー-KOBE)         |
| 研究協力者  | 石井 誠剛  | (イシイ内科クリニック)          |
| 研究協力者  | 石井 豊   | (石井クリニック)             |
| 研究協力者  | 石川 泰章  | (石川泌尿器科)              |
| 研究協力者  | 今西 治   | (いまにし泌尿器科)            |
| 研究協力者  | 岩佐 厚   | (岩佐クリニック)             |
| 研究協力者  | 菅野 展史  | (菅野クリニック)             |
| 研究協力者  | 清田 敦彦  | (清田クリニック)             |
| 研究協力者  | 栗原 陽次郎 | (近藤クリニック)             |
| 研究協力者  | 澤田 暁宏  | (兵庫医科大学)              |
| 研究協力者  | 塩野 徳史  | (MASH 大阪)             |
| 研究協力者  | 杉本 賢治  | (京橋杉本クリニック)           |
| 研究協力者  | 中村 幸生  | (中村クリニック)             |
| 研究協力者  | 西岡 弘晶  | (神戸市立医療センター中央市民病院)    |
| 研究協力者  | 西田 明子  | (大阪府健康医療部保健医療室感染症対策課) |
| 研究協力者  | 福原 恒   | (平成泌尿器科クリニック)         |
| 研究協力者  | 古林 敬一  | (そねざき古林診療所)           |
| 研究協力者  | 前田 裕弘  | (まえだクリニック)            |
| 研究協力者  | 吉田 昂汰  | (いだてんクリニック)           |
| 研究協力者  | 渡邊 大   | (国立病院機構大阪医療センター)      |
| 研究分担者  | 今村 顕史  | (東京都立駒込病院)            |

### 研究要旨

ハイリスク層向けの検査提供のモデルとして、ゲイ・バイセクシャル男性向け HIV・STI 検査の提供を試みた。方法としては、大阪府が実施する診療所を窓口としたゲイ・バイセクシャル男性向け HIV・性感染症検査キャンペーンに併せ、大阪府内と兵庫県阪神地域の合計 3 ヶ所のクリニックの協力のもと、HIV と STI の検査を通常検査で提供した。また、受検者の背景やリスクを解析する目的で、受検者を対象としたアンケート調査を行った。

検査の総受検者数は 640 名（通常検査が 224 名、即日検査が 416 名）で、HIV 陽性者は 3 名（通常検査が 1 名、即日検査が 2 名）であった（陽性率 0.5%）。HIV 陽性者 3 名はすべて新規 HIV 陽性判明者であった。受検者アンケートは、218 名から同意・回答を得た。

### A. 研究目的

COVID-19 の流行により、HIV 対策の柱の一つである全国の保健所における無料匿名 HIV 検査は、緊急事態宣言の発出や保健所の業務過多により、休止・縮小せざるを得なくなり、受検者数が激減するなど、大きな打撃を受

けた。このことにより、保健所以外の HIV 検査体制の構築を検討する必要があるとの意見がある。一方、大阪府においては、できる限り HIV 検査・相談は縮小しない方針の下、感染対策のために多少は受検者数の減少はみられたものの、緊急事態宣言の発令中以外はコロナ禍

においても他の地域ほどは無料匿名 HIV 検査件数の減少はみられず、さらに大阪府ではコロナ禍においても、クリニックを窓口とし HIV 対策の個別施策層であるゲイ男性を対象とした無料 HIV・性感染症検査の提供を、医療機関の協力のもと実施を継続してきた。2023 年度もクリニックにおけるゲイ・バイセクシャル男性向け HIV 検査の提供を実施し、利用者の属性や受検行動を解析することを目的に本研究を行った。

## B.研究方法

大阪府ではエイズ対策の一環として、診療所・クリニックを窓口としたゲイ・バイセクシャル男性向け HIV・性感染症 (STI) 即日検査事業を毎年実施している。そこで本研究では、同様の HIV・性感染症 (STI) 検査キャンペーンを、大阪府内と兵庫県阪神地域の計 3 か所の診療所医師の協力を得て、大阪府の事業（今年度は 11 か所の医療機関が協力）と同時に実施し、広報も統一することで、利用者からは一つのキャンペーンとして見えるように実施した。キャンペーンは、8 月 21 日から 9 月 30 日までの第一期と、11 月 1 から 12 月 16 日までの第二期の二度実施した。キャンペーンの特設 Web サイトとゲイ向け出会いアプリの広告、大阪府内と京都市内の商業施設への広報は MASH 大阪が担当し、兵庫県内の広報はふれんどりーKOBE が担当した。

本研究では HIV 抗原抗体スクリーニング検査、梅毒 TP 抗体検査、脂質抗体検査、HBs 抗原検査、HCV 抗体検査、クラミジア遺伝子検査（尿検体による）を、一週間後の結果返しの通常検査として提供し、検査は民間検査会社にて委託実施した。（大阪府事業では即日検査による HIV 抗原抗体スクリーニング検査、梅毒 TP 抗体検査、HBs 抗原検査を提供し、検査は各クリニックにおいて実施された。）通常検査、即日検査にかかわらず HIV スクリーニング検査で陽性になった場合には、大阪健康安全基盤研究所において HIV 確認検査を実施した。また、受検者の属性や受検行動を解析し、検査提供方法の今後の改善に利用するため、受検者に対し自記式アンケート調査を実施した。

（倫理面への配慮）

本研究は地方独立行政法人 大阪健康安全基盤研究所 倫理審査委員会の承認を得て実施した（申請番号：1802-06）。

## C.研究結果

令和 5 年 8 月 21 日から 9 月 30 日まで実施したキャンペーンの第一期では、本研究で提供

した通常検査の受検者数は 131 名で、HIV 陽性者はみられなかった。梅毒抗体陽性者は 40 名（30.5%）、HBs 抗原検査陽性者は 1 名（0.76%）、HCV 抗体陽性者は 1 名（0.76%）、クラミジア遺伝子陽性者は 8 名（6.1%）であった。（同時期に実施した大阪府事業の即日検査の受検者数は 219 名で、HIV 陽性者は 2 名（0.91%）、梅毒抗体陽性者は 42 名（19.9%）、HBs 抗原検査陽性者はみられなかった。

令和 5 年 11 月 1 日から 12 月 16 日まで実施した第二期では、通常検査の受検者数は 93 名で、HIV 陽性者は 1 名（1.1%）、梅毒抗体陽性者は 32 名（34.4%）、HBs 抗原検査陽性者は 1 名（1.1%）、HCV 抗体陽性者はみられず、クラミジア遺伝子陽性者は 3 名（3.2%）であった。（同時期に実施した大阪府事業の即日検査の受検者数は 197 名で、HIV 陽性者はみられなかった。梅毒抗体陽性者は 31 名（15.7%）、HBs 抗原検査陽性者はみられなかった。

第一期と第二期を合算した結果は、通常検査の受検者数が 224 名、HIV 陽性者は 1 名（0.45%）、梅毒抗体陽性者は 72 名（32.1%）、HBs 抗原検査陽性者は 2 名（0.89%）、HCV 抗体陽性者は 1 名（0.45%）、クラミジア遺伝子陽性者は 11 名（4.9%）であった。（同時期に実施した大阪府事業の第一期と第二期を合算した結果は、即日検査の受検者数が 416 名、HIV 陽性者は 2 名（0.48%）、梅毒抗体陽性者は 73 名（17.9%）、HBs 抗原検査陽性者はみられなかった。）

参考値にはなるが、本研究で実施した通常検査と大阪府事業で実施された即日検査の第一期と第二期を合わせた結果は、総受検者数が 640 名、HIV 陽性者は 3 名（いずれも新規診断症例）で陽性率は 0.47%、梅毒抗体陽性者は 145 名で陽性率は 22.9%、HBs 抗原陽性者は 2 名で、陽性率は 0.3%であった。

通常検査実施診療所で実施した受検者のアンケート調査では、第一期に 129 名、第二期に 89 名、計 218 名から同意のもと回答を得た。

## D.考察

受検者数についてみると、昨年度の本キャンペーンの受検者数は、通常検査が 191 名、即日検査が 265 名、総受検者は 456 名であり、本年度はそれぞれ 17.3%、49.6%、40.4%増加していた。即日検査が 49.6 も増加した背景は、スマートフォンのアプリで簡単に予約ができ、待ち時間の少ない利便性の高いと考えられる医療機関が今年度新たに協力医療機関に加わったからだと考えられるが、協力医療機関が昨年と変化がない通常検査も 17%利用者が増加

しており、こちらは新型コロナウイルスの流行が落ち着いてきたことが主な原因と考えられる。今後は、まだ着手できていないアンケートの回答を解析するなどして、通常検査利用者の増加の原因をさらに検討したい。

一方、各検査の陽性件数と陽性率に着目すると、HIV 陽性率の低下、即日検査における梅毒抗体と HBs 抗原の陽性率の低下、通常検査のクラミジア遺伝子の上昇が目につく。HIV 陽性率については、本キャンペーンを開始した「エイズ予防のための戦略研究（研究代表者：木村哲）」の研究期間中やその後しばらくの間は数%と高く、同時期の大阪府内保健所の HIV 陽性率の 10 倍程度であったが、その後、年数が経つに従い徐々に低下し、ここ数年は保健所の陽性率の 2～3 倍で推移していた。しかし、本年度は同時期の保健所の HIV 陽性率が 0.28%であり、キャンペーンの HIV 陽性率は 0.47%と 2 倍を下回った。同一地区の同じコミュニティ・集団を対象に HIV 検査機会を提供し続けた場合に、HIV 陽性率が徐々に減少していくことは、他の検査機会の提供においても報告がある（NLGR 検査会（横幕ら）、SHIP 神奈川ゲイにやさしい検査（星野ら））が、一方で、大阪府の HIV 発生届出数は毎年減少傾向を維持しており、今回観察された陽性率の低下も、両方の要因と関連があると考えられる。即日検査における梅毒抗体と HBs 抗原の陽性率の低下については、今年度即日検査の受検者の大幅な増加に貢献した、新たに協力が得られた利便性の高い医療機関の効果により、比較的风险の低い者が受検した事による可能性が考えられた。一方、通常検査のクラミジア遺伝子の上昇については、通常検査の受検者数自体が昨年と比較してほとんど増加していないことを考慮すると、コロナ禍後のコミュニティ全体の感染リスク行動の活発化を示唆している可能性があり、今後、他の性感染症や HIV の感染の再拡大に注意が必要かもしれない。今後は、まだ着手できていない通常検査の受検者アンケートの回答を解析し、より詳細な検討を実施していく予定である。

## E. 結論

今年度、ゲイ・バイセクシャル男性向けに HIV・性感染症検査を提供し、新規 HIV 陽性判明者を医療へ繋げ、また、性感染症の拡大阻止に貢献した。今後はアンケート調査の解析を行うことで本年度の効果・評価を行い、次年度の検査の提供方法の改善に利用する。

## F. 健康危険情報

該当なし

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

1. Otani M, Shiino T, Hachiya A, Gatanaga H, Watanabe D, Minami R, Nishizawa M, Teshima T, Yoshida S, Ito T, Hayashida T, Koga M, Nagashima M, Sadamasu K, Kondo M, Kato S, Uno S, Taniguchi T, Igari H, Samukawa S, Nakajima H, Yoshino Y, Horiba M, Moro H, Watanabe T, Imahashi M, Yokomaku Y, Mori H, Fujii T, Takada K, Nakamura A, Nakamura H, Tateyama M, Matsushita S, Yoshimura K, Sugiura W, Matano T, Kikuchi T, Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network. Association of demographics, HCV co-infection, HIV-1 subtypes and genetic clustering with late HIV diagnosis: a retrospective analysis from the Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network. J Int AIDS Soc. 26(5):e26086. 2023.
2. Yagi M, Hama M, Ichii S, Nakashima Y, Kanbayashi D, Kurata T, Yusa K, Komano J Sphingomyelin synthase 1 supports two steps of rubella virus life cycle iScience. 2023 Nov 17; 26(11): 108267.
3. 梶月由香、川畑拓也、阪野文哉、浜みなみ、柿本健作、入谷展弘、本村和嗣 大阪府における梅毒の発生動向と対策 病原微生物検出情報 (IASR)、44 (12)、203-204、2023年
4. 阪野文哉、浜みなみ、川畑拓也、森 治代 大阪健康安全基盤研究所におけるHTLV-1確認検査 大阪健康安全基盤研究所 研究年報 第7号 令和5年度、62-65、令和6年

### 2. 学会発表

1. 川畑拓也、阪野文哉、浜みなみ、森 治代、本村和嗣、渡邊 大、塩野徳史、西田明子、朝来駿一、青木理恵子、澤田暁宏、西岡弘晶、荒川創一、大森亮介、駒野 淳 クリニックにおけるMSM向けHIV・性感染症検査キャンペーン・2022年度実績報告 第36回近畿エイズ研究会学術集会、2023年、神戸
2. 阪野文哉、浜みなみ、川畑拓也、大隈 和 大阪府とその近郊におけるHIVハイリスク層のHTLV-1水平感染の検討 第36回近畿エイズ研究会学術集会、2023年、神戸
3. 浜みなみ、阪野文哉、川畑拓也 HIV確認



- 検査陽性者のHTLV-1重複感染の実態調査  
第36回近畿エイズ研究会学術集会、2023年、神戸
4. 白野倫徳、森田 諒、麻岡大裕、福岡里紗、飯田 康、中河秀憲、笠松 悠、古林敬一、上林大起、倉田貴子、阪野文哉、浜みなみ、川畑拓也、本村和嗣 当院で経験したmpox症例 第36回近畿エイズ研究会学術集会、2023年、神戸
  5. 八木真裕子、藤田 薫、一井沙耶佳、濱みなみ、中嶋友里江、駒野 淳 ヒト細胞におけるオートファジーと風疹ウイルス持続感染の相互作用に関する解析 第70回日本ウイルス学会学術集会、2023年、仙台
  6. 阪野文哉、浜みなみ、川畑拓也、中村幸生、杉本賢治、大隈 和 大阪府とその近郊におけるHIVハイリスク層のHTLV-1水平感染の実態調査 第9回日本HTLV-1学会学術集会、2023年、京都
  7. 川畑拓也 性感染症領域の核酸増幅検査の実態～エムボックス・梅毒・HIVを中心に～ 日本性感染症学会第36回学術大会、2023年、東京
  8. 川畑拓也 迅速検出法の展望・梅毒トレポネーマの迅速検出法ー核酸増幅検査を中心にー 日本性感染症学会第36回学術大会、2023年、東京
  9. 浜みなみ、川畑拓也、上林大起、倉田貴子、阪野文哉、阿部仁一郎、本村和嗣 大阪府におけるエムボックスのアウトブレイクとその疫学的検討 日本性感染症学会第36回学術大会、2023年、東京
  10. 森田 諒、川畑拓也、坂井田美穂、松木厚、阪野文哉、浜みなみ、大隈智尚、井上健、白野倫徳 母が妊娠中期に梅毒に感染し子宮内胎児死亡した死産児の一剖検例 日本性感染症学会第36回学術大会、2023年、東京
  11. 安田 満、志牟田健、高橋英之、明田幸宏、小林寅喆、大澤佳代、陳内理生、三宅啓文、川畑拓也、大西 真 2021年にわが国で分離された淋菌の薬剤感受性報告 日本性感染症学会第36回学術大会、2023年、東京
  12. 大濱侑季、志牟田健、中山周一、森田昌知、吉田 愛、高橋英之、安田 満、川畑拓也、大西 真、明田幸宏 *Neisseria gonorrhoeae*の分子型別による系統変化及び薬剤耐性遺伝子型の解析 日本性感染症学会第36回学術大会、2023年、東京
  13. 菊地 正、西澤雅子、小島潮子、大谷眞智子、Lucky Runtwene、椎野禎一郎、豊嶋

- 崇徳、伊藤俊広、林田庸総、湯永博之、岡慎一、古賀道子、長島真美、貞升健志、佐野貴子、近藤真規子、宇野俊介、谷口俊文、猪狩英俊、寒川 整、中島秀明、吉野友祐、堀場昌英、茂呂 寛、渡邊珠代、蜂谷敦子、今橋真弓、松田昌和、重見 麗、岡崎玲子、岩谷靖雅、横幕能行、渡邊 大、阪野文哉、川畑拓也、藤井輝久、高田清式、中村麻子、南 留美、松下修三、饒平名聖、仲村秀太、健山正男、藤田次郎、吉村和久、杉浦 互 2022年の国内新規診断未治療HIV感染者・AIDS患者における薬剤耐性HIV-1の動向 第37回日本エイズ学会学術集会、2023年、京都
14. 阪野文哉、川畑拓也、浜みなみ、渡邊大、塩野徳史、西田明子、朝来駿一、青木理恵子、澤田暁宏、西岡弘晶、荒川創一、大森亮介、駒野 淳、森 治代、本村和嗣 MSM向けHIV・性感染症検査キャンペーン (2022年度実績報告) 第37回日本エイズ学会学術集会、2023年、京都

## H.知的財産権の出願・登録状況

該当なし。

## 2023年度 検査キャンペーン 受検者数

|      | 即日        | 通常        | 計         |
|------|-----------|-----------|-----------|
| I 期  | 219 (134) | 131 (100) | 350 (234) |
| II 期 | 197 (131) | 93 ( 91)  | 290 (222) |
| 合計   | 416 (265) | 224 (191) | 640 (456) |

( ) 内は2022年度の受検者数

2022年度と比較して即日検査、通常検査ともに検査受検者数は増加し、総検査受検者数は40.4%増加した。特に即日検査では前年度と比べて49.6%増加していた。

## 2023年度 検査キャンペーン 陽性件数

|        | HIV        | 梅毒抗体          | HBs抗原      | HCV抗体      | クラミジア遺伝子    |
|--------|------------|---------------|------------|------------|-------------|
| I 期即日  | 2<br>(0.9) | 42<br>(19.9)  | 0<br>(0)   |            |             |
| II 期即日 | 0<br>(0)   | 31<br>(15.7)  | 0<br>(0)   |            |             |
| 即日合計   | 2<br>(0.5) | 73<br>(17.9)  | 0<br>(0)   |            |             |
| I 期通常  | 0<br>(0)   | 40<br>(30.5)  | 1<br>(0.8) | 1<br>(0.8) | 8<br>(6.1)  |
| II 期通常 | 1<br>(1.1) | 32<br>(34.4)  | 1<br>(1.1) | 0<br>(0)   | 3<br>(3.2)  |
| 通常合計   | 1<br>(0.5) | 72<br>(32.1)  | 2<br>(0.9) | 1<br>(0.5) | 11<br>(4.9) |
| 総計     | 3<br>(0.5) | 145<br>(22.9) | 2<br>(0.3) | 1<br>(0.5) | 11<br>(4.9) |

下段 ( ) 内は陽性率 (%)

## (参考)2022年度 検査キャンペーン 陽性件数

|        | HIV        | 梅毒抗体          | HBs抗原      | HCV抗体    | クラミジア遺伝子   |
|--------|------------|---------------|------------|----------|------------|
| I 期即日  | 0<br>(0)   | 33<br>(24.6)  | 2<br>(1.5) |          |            |
| II 期即日 | 1<br>(0.7) | 38<br>(29.0)  | 2<br>(1.5) |          |            |
| 即日合計   | 1<br>(0.4) | 71<br>(26.8)  | 4<br>(1.5) |          |            |
| I 期通常  | 2<br>(2.0) | 25<br>(25.0)  | 2<br>(2.0) | 0<br>(0) | 2<br>(2.0) |
| II 期通常 | 1<br>(1.1) | 32<br>(35.1)  | 2<br>(2.2) | 0<br>(0) | 1<br>(1.1) |
| 通常合計   | 3<br>(1.6) | 57<br>(29.8)  | 4<br>(2.1) | 0<br>(0) | 3<br>(1.6) |
| 総計     | 4<br>(0.9) | 128<br>(28.1) | 8<br>(1.8) | 0<br>(0) | 4<br>(2.1) |

下段（ ）内は陽性率（％）

## 検査キャンペーンで新規に陽性と判明した人の割合

2018年以降の検査キャンペーンで、新規に陽性と判明した人の割合と、保健所・特設検査場の陽性率の比較

| 年度                            | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023        |
|-------------------------------|------|------|------|------|------|-------------|
| 検査キャンペーンで新規にHIV陽性と判明した人の割合（％） | 1.05 | 1.01 | 1.03 | 0.83 | 0.66 | <u>0.47</u> |
| 保健所・特設検査場でのHIV陽性率（％）          | 0.15 | 0.48 | 0.34 | 0.40 | 0.31 | <u>0.28</u> |

## 2023年度 検査キャンペーン 受検者数

|      | 即日        | 通常        | 計         |
|------|-----------|-----------|-----------|
| I 期  | 219 (134) | 131 (100) | 350 (234) |
| II 期 | 197 (131) | 93 ( 91)  | 290 (222) |
| 合計   | 416 (265) | 224 (191) | 640 (456) |

( ) 内は2022年度の受検者数

2022年度と比較して即日検査、通常検査ともに検査受検者数は増加し、総検査受検者数は40.4%増加した。特に即日検査では前年度と比べて49.6%増加していた。

## 2023年度 検査キャンペーン 陽性件数

|             | HIV               | 梅毒抗体                 | HBs抗原             | HCV抗体             | クラミジア遺伝子           |
|-------------|-------------------|----------------------|-------------------|-------------------|--------------------|
| I 期即日       | 2<br>(0.9)        | 42<br>(19.9)         | 0<br>(0)          |                   |                    |
| II 期即日      | 0<br>(0)          | 31<br>(15.7)         | 0<br>(0)          |                   |                    |
| <b>即日合計</b> | <b>2</b><br>(0.5) | <b>73</b><br>(17.9)  | <b>0</b><br>(0)   |                   |                    |
| I 期通常       | 0<br>(0)          | 40<br>(30.5)         | 1<br>(0.8)        | 1<br>(0.8)        | 8<br>(6.1)         |
| II 期通常      | 1<br>(1.1)        | 32<br>(34.4)         | 1<br>(1.1)        | 0<br>(0)          | 3<br>(3.2)         |
| <b>通常合計</b> | <b>1</b><br>(0.5) | <b>72</b><br>(32.1)  | <b>2</b><br>(0.9) | <b>1</b><br>(0.5) | <b>11</b><br>(4.9) |
| <b>総計</b>   | <b>3</b><br>(0.5) | <b>145</b><br>(22.9) | <b>2</b><br>(0.3) | <b>1</b><br>(0.5) | <b>11</b><br>(4.9) |

下段 ( ) 内は陽性率 (%)

## (参考)2022年度 検査キャンペーン 陽性件数

|        | HIV        | 梅毒抗体          | HBs抗原      | HCV抗体    | クラミジア遺伝子   |
|--------|------------|---------------|------------|----------|------------|
| I 期即日  | 0<br>(0)   | 33<br>(24.6)  | 2<br>(1.5) |          |            |
| II 期即日 | 1<br>(0.7) | 38<br>(29.0)  | 2<br>(1.5) |          |            |
| 即日合計   | 1<br>(0.4) | 71<br>(26.8)  | 4<br>(1.5) |          |            |
| I 期通常  | 2<br>(2.0) | 25<br>(25.0)  | 2<br>(2.0) | 0<br>(0) | 2<br>(2.0) |
| II 期通常 | 1<br>(1.1) | 32<br>(35.1)  | 2<br>(2.2) | 0<br>(0) | 1<br>(1.1) |
| 通常合計   | 3<br>(1.6) | 57<br>(29.8)  | 4<br>(2.1) | 0<br>(0) | 3<br>(1.6) |
| 総計     | 4<br>(0.9) | 128<br>(28.1) | 8<br>(1.8) | 0<br>(0) | 4<br>(2.1) |

下段（ ）内は陽性率（％）

## 検査キャンペーンで新規に陽性と判明した人の割合

2018年以降の検査キャンペーンで、新規に陽性と判明した人の割合と、  
保健所・特設検査場の陽性率の比較

| 年度                            | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023        |
|-------------------------------|------|------|------|------|------|-------------|
| 検査キャンペーンで新規にHIV陽性と判明した人の割合（％） | 1.05 | 1.01 | 1.03 | 0.83 | 0.66 | <u>0.47</u> |
| 保健所・特設検査場でのHIV陽性率（％）          | 0.15 | 0.48 | 0.34 | 0.40 | 0.31 | <u>0.28</u> |